

# 子ども国際理解サマースクール

国際学部長(宇都宮大学 HANDS プロジェクト研究代表) 田巻松雄

宇都宮大学 HANDS プロジェクトコーディネーター 船山千恵

## 1. 事業の目的・意義

2014年8月7日と8日の2日間、宇都宮市教育委員会東生涯学習センター（以下、東生涯学習センター）と HANDS プロジェクトの協働で「子ども国際理解サマースクール」（以下、サマースクール）が行われました。本事業は、HANDS としては5度目となる多文化共生教育実践です。

第1日目の目的は、国際的な活動をしている方を講師に迎え、子どもたちの目を世界に向けるきっかけづくりで、第2日目の目的は、外国につながる宇大生などの学生団体 HANDS Jr や宇大留学生などの企画・支援のもと、かれらと直接交流しながら、参加小学生たちの国際感覚を養うことです。

## 2. 事業内容

### (1) 参加型講義

第1日目：8月7日 10時～12時

テーマ「世界を知ろう & 世界から学ぼう 2014 ～韓国編～」

### (2) 国際交流

第2日目：8月8日 10時～14時

テーマ「世界を感じよう 2014 ～宇大留学生たちとの交流～」

## 3. 事業の進捗状況

### (1) 第1日目

テーマ「世界を知ろう & 世界から学ぼう 2014 ～韓国編～」

講師 韓相榮さん、鄭仁淑さん(ともに、栃コリア、宇都宮大学大学院国際学研究科前期課程修了)

#### 1. 韓国の文化について

①韓国の紙幣・韓国語紹介

②韓国衣装試着

2. 韓国の伝統楽器サムル四物ノリ) 体験

3. テコンドー体験

#### 4. 韓国の遊び「チェギチャギ」(羽蹴り)

「1. 韓国の文化について」では、韓国は飛行機で2時間という非常に近い国であることを地図を使った説明で改めて実感しました。女性は結婚してもたいていは夫の姓に変更せず、夫婦別姓が多いことを知りました。

食事については、韓国で使われているスプーンやお箸を児童たちは実際に触れることができ、鉄製のスプーンやお箸の重さを実感し、「スプーンでご飯を食べ、他のものには箸を使うから食べるのに結構忙しい」という講師のお話に、納得していました。「お椀などの食器を持って食べるのは行儀が悪い」という、日本とは反対の習慣があることにも、児童たちは驚いた様子でした。

韓国の子どもたちの生活は、月曜から金曜までは毎日同じ習い事や塾があつて、非常に忙しいの



で、学校から帰ってきてからは、遊ぶ時間が十分になくて「少しかわいそうな生活」を送っていると鄭先生。大学入学に向けて、中学校から、特に高校では夜中までかなり熱心に勉強し、その結果、90%以上が大学に進学するそうです。

韓国の紙幣も紹介していただき、10000 ウォン札の人物に描かれているのは、「世宗大王 세종대왕 세ジョンデワン」で、朝鮮の4代国王で、韓国固有の文字、ハングルを作り、科学の発展にも大きく貢献した人物とお話いただき、次は韓国語講座へ。

「こんにちは」と「ありがとうございます」の韓国語での書き方や発音の仕方を教えていただきました。「こんにちは」は「안녕하세요?」(アンニョンハセヨ)の他に、「안녕?」(アンニョン)という友だち同士で使う軽いあいさつも教えていただきました。「ありがとうございます」は、「감사합니다.」(カムサハムニダ)で、児童たちは、「ム」の発音では口を意識して結ぶという正しい発音のコツを伝授され、何度も復唱しました。「감사합니다.」は日本語で「感謝します」に相当し、「カムサ」と「カンシャ」はだから似ているとのことで、みんな「なるほどね」。そして、この韓国語講座の中で一番驚いたのは、児童たちが初めて書いたであろう「안녕하세요?」と「감사합니다.」のハングル文字です。児童たちは、一筆一筆書き方を教わりながら自分の資料に書き込みましたが、巡視すると、間違わないよう真剣に丁寧に書かれたそのハングル文字の美しさに感動！近い将来、この児童たちから、韓国語の達人やハングル文字の研究者が現れるかもしれないと、期待せずにはいられませんでした。

その後は、韓国伝統衣装の「韓服(ハンボ)」の試着です。男性用を「パジチョゴリ」、女性用を「チマチョゴリ」というそうです。2人の講師が持ってきてくれた「パジチョゴリ」と「チマチョゴリ」を試着した児童や本学の学生と一緒に全員で記念撮影しました。その「韓服(ハンボ)」を着たままでの座り方も教えていただき、男性は、あぐらをかくのが一般的で、女性は、腰を下ろしたあと右膝だけをたてて、その膝の上に両手を置くそうです。

「2. 韓国の伝統楽器体験」では、韓先生が「サムルノリ」という4つの打楽器、「ケンガリ」「チャンゴ」「チン」「プッ」を紹介しました。田植えの時に豊作を祈願して行うお祭りでのその楽器を奏でるのだそうです。「ドン ドン クン ター クン」などと、それぞれの楽器のリズムを教えてもらい、韓先生と一緒に演奏体験しました。独特のリズムや初めて見る楽器から出てくる音に、参加者一同「韓国」を感じました。

「3. テコンドー体験」では、講師の韓先生ほか、

韓先生のお子さんの韓準赫さん(宇都宮市立富士見小4年)にも協力していただき、一同が静まりかえるほどの気合いの入ったテコンドーをまず披露していただきました。準赫さんによる「前蹴り」「前回し蹴り」「後ろ回し蹴り」などの連続での演技は、一つ一つの動きが力強く、正確で、小学生とは信じがたいその美しさと格好の良さに、魅了されました。その後の体験では、私は日頃の運動不足を思い知らされましたが、児童たちは準赫ミニ先生



の動きを見よう見まねで、韓相榮講師の気合いの入ったかけ声に合わせて、元気よく「前蹴り」していました。

「4. 韓国の遊び チェギチャギ」では、順番に体験しました。日本の蹴鞠(けまり)を思い起こさせるチェギチャギ。「羽根(チェギ)」を地面に落とさないように蹴り続けます。韓先生は100回以上も連続で蹴り続けられるのだそうですが、児童たちの多くはもちろん「チェギチャギ」は初体験でしたから、数回続けるのがやっとでした。

## (2) 第2日目

テーマ「世界を感じよう 2014 ～宇大留学生たちとの交流～」

本学には、世界の27の国・地域から263名の留学生が学んでいます(本学学務部留学生・国際交流課調べ、2014年5月1日現在)。今回は、5カ国10名の留学生に協力を依頼したところ、「(自分たちの住む宇都宮)市内の子どもたちとも交流した

いと思っていた！」と快諾してくれました。

5カ国とは、イタリア、スロバキア、インド、アメリカ、ガボンです。その5人の留学生と留学生アドバイザーの日本人学生の堀部聖人さん(国際学部4年)が中心になって、交流内容を考えました。他に、特にこの日のために、HANDS Jr という、外国人児童教育支援や国際理解活動に強い関心を持つ学生団体が熱心に企画・準備・運営しました。今年もこの行事が本学の地域連携・貢献活動支援事業に採択されたのも、本学の学生が主体的に準備の段階から本事業に関わることにより、日頃の研究の実践の場となることも目的の一つとして理解してもらえたからであり、また、東生涯学習センター所長 水沼栄様をはじめ東生涯学習センターの皆様にもその点をご理解いただき、担当者様にすべての打合せに参加していただき、学生へご指導いただけましたので、学生の成長へつながったのではないかと思います。ただ、残念ながら当日スロバキアからの留学生が欠席になり、イタリア、インド、アメリカ、ガボンの4カ国だけになってしまいましたが、その4カ国からの留学生の他に、タイ、中国、マレーシア、ベトナムからの留学生も加わり、当日は9名の留学生と、以下の5つの活動を中心に交流することができました。

#### 1. アイスブレイク「新聞紙を使って AMIGO！」



まず児童を8つのグループに分け、広げた新聞紙1枚に各グループ何人乗れるか、また、何分で全員が乗れるかを競い合います。普通に起立しただけですと、3人くらいしか紙上に乗ることはでき

ませんが、「抱っこしよう」「おんぶしてみよう」などと、コミュニケーションをとるうちに、創意工夫しながら協力することを学びます。制限時間以内でグループのメンバー7名全員が紙上に乗ることは、はじめは困難ですが、2回戦、3回戦と重ねるごとに、制限時間を残してでも達成することができたグループもありました。

#### 2. 交流ゲーム①「スプーンレース」

手に持ったスプーンにピンポン球を乗せて15メートルの距離を往復するグループ対抗レースです。



ピンポンの“バトン”が渡ると、落とさないように慎重になりつつも、どのチームも1位を目指してゴールまでがんばりました。各チーム、熱い声援に励まされました。

#### 3. 交流ゲーム②「ピックザボール」

まず、児童たちは指示だしワークシートで、各言語での指示の言い方を学びます。先述の4カ国の言語である英語・イタリア語・ヒンディー語・フランス語で、「前」「後」「右」「左」「止まれ」「前に進め!!」「後ろに下がれ!!」を学習しますが、普段耳慣れないヒンディー語やフランス語に悪戦苦闘していました。その後、ゲームを始めます。目隠しをした各グループの代表留学生に各言語(チーム別)で指示を与え、スタート位置から10メートル先の円の中にあるボールを拾い、スタート位置にあるカゴにまでそのボールを入れますが、できるだけ多くボールを制限時間以内に入れます。4色あるボールの色で得点が変わりますが、留学生は目隠ししているの、各言語での指示の正確さ

が得点を大きく左右します。これは、大いに盛り上がり、すべての交流ゲームが終わってからもアンコールで再試合したほどでした。留学生と楽しくゲームできましたし、留学生からの直接指導により、中には、“Devant!”や“Arret!”とフランス語の素晴らしい発音で指示できるに至った児童もいて、英語以外の言語に親しむいい機会になりました。

#### 4. 交流ゲーム③「ドッジビーde AMIGO!」

大きなコートの中に4グループごとの2チームに分かれた児童が、コートの外に留学生や大学生が外野としてスタンバイし、ドッジビー対戦しました。投げられたドッジビーに当たった児童はコートの外へ移動し外野になります。どちらかのチームが全員OUTになるまで熱戦を繰り広げました。

#### 5. 国際理解ゲーム「4 Corners Quiz」



パワーポイントを使って、留学生の出身国ごとに4択クイズを出題しました。国旗についての出題やその国で人気のあるスポーツを選ぶクイズなど、留学生たちが用意した問題が出されました。児童が正解だと思う答えのコーナーに移動してもらい、正解を発表し、留学生による補足説明を行いました。例えば、「イタリアの首都はどこでしょうか？」の問いに、A:ミラノ、B:フィレンツェ、C:ローマ、D:ベネツィアから答えを選び、Aだと思う人はAのコーナーに行きます。当たれば、のちにポイント換算するシールをもらえます。

#### 4. 事業の成果

参加小学生からは、本スクールに対して概ね高

い評価が得られました。アンケート結果の内容等から、韓国をテーマとする参加型授業と本学留学生との交流事業に参加したことで、参加小学生の国際的な関心や国際感覚が大いに増大したと判断



されます。また、本学留学生と日本人学生は本スクールの企画・運営を担ったことで、実践的な国際理解教育を推進する力を向上させました。

#### 5. 今後の展望

例年、本スクールへの参加希望者は定員を大きく上回ってきました。そして、参加者からは概ね高い評価を得てきました。リピーターも何人か出ています。この大きな理由は、学校現場での国際理解教育がまだ極めて少ないことに加え、本スクールでは、大学と行政が協力連携しながら何度も協議を重ねて用意周到に計画を立て実施してきたことにあります。参加小学生にとっては国際的な問題関心と国際感覚を養う貴重な場となっており、参加大学生にとっては実践的な国際理解教育を経験する貴重な場となっています。国際学部とHANDSプロジェクトの人的資源等を活かした効果的な地域貢献・人材育成事業となっており、今後も継続的に実施していきたいです。